

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣への散歩や毎日の食材の買い物に近くのスーパーに出かけたり、美容院へ行くなど日常的に外出し地域との関わりを念頭に置いた生活支援に努めています。	○	平成12年に開所し、入所時80歳代だった方たちも97歳が2名、95歳が1名と高齢化、重度化してきています。個々の状態にあった支援の大切さを感じております。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念に沿った介護が出来ているか、カンファレンスを持ち話し合いをしている。必要に応じ相談の上修正しながら生活支援に取り組んでいます。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	公共施設や商店、地域の催し物等に出向き普通に生活をおくっています。又小学生との交流も数多くありますが、お年寄りとして普通に過ごされています。ご家族には普段の生活をお話ししたり、写真などで実際の様子をご理解いただいています。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出たときに挨拶をかわすことは出来ています。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学生の来訪や運動会、音楽会、参観日に招待いただくことがあります。初詣に出かけたり正月行事のどんど焼きに参加したり地域のボランティアとしてアニマルセラピー、抹茶、腹話術、本の読み聞かせなどがあります。	○	地域の敬老会など、老人の集まりに参加する機会があればと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の家族の会や家族の見学、相談対応。ご利用者が近所の小学校の授業時間に昔の遊びを教えたり話しに行く等の地域との交流があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価および外部評価の意義を理解し結果を真摯にうけとめ、評価を活かした改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の生活「行事、インシデント、アクシデント、健康状態等」の報告を行いグループホームの現状を理解いただくとともに外部からのご意見は意識してサービス向上にいかしています。	○	会議の情報、人脈をとおして、より地域に密着した運営が出来るように取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諏訪市社会福祉協議会の（生き生き元気館）をご提供いただき（減免）長野県宅老所グループホーム連絡会の研修会（年3回以上）を行っています。（研修会の場所の提供）諏訪市から派遣された介護相談員の方の訪問により入居者、職員助言いただいています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	ご利用者様のご家族より申し出が有り成年後見人制度の申請があり対応実績があります。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関して常に関心を持ち、話し合いの場や学ぶ機会を持っています。ご利用者が精神的、肉体的に安全で穏やかな日常生活が送れているか虐待がないか話し合いをもっています。	○	ご利用者に対しての言葉がけやご利用者の表情や動作にいたるまで職員同士が思ったままに意見の言える関係が出来つつあると思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切丁寧を旨に、ご理解、同意をいただきサービスの実施に努めています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃からご利用者とのコミュニケーションをとり意見、不満、苦情等を遠慮なく言っていただけの雰囲気づくりを行うと共に苦情の有った際は、苦情が事業所の質を向上させる機会と捉え職員と運営者と話し合いを持ちます。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会の際(主にキーパーソン)近況報告、健康管理などの報告をしています。金銭管理に関しては金銭管理張の確認とサインを頂いています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には公的相談苦情窓口の電話番号を記載して説明させて頂いています。又施設玄関にも公的窓口の掲示、ご意見箱を設置して直接言いにくいご不満をお聞きする努力をしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、密に運営者と連絡を取り合い必要に応じ会議を開きホームの運営にあたっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の多勢での外出（花見、外食会など）やボランティアの受け入れ、研修者の受け入れ時は、勤務人数等の調整をおこなっています。	○	勤務人員の調整を行っているがマンパワー不足により外出ボランティアの受け入れが出来たらよいと思う。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員との馴染みの関係を大切に異動や離職者が同時期に重ならないように努めています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長野県の研修、長野県宅老所・グループホーム連絡会の研修等に積極的に参加してケアの質の向上に努めています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年4月より、当事業所の事務長が世話人をして諏訪圏域のグループホームの職員が集まる交流会を「こまくさの森」で開き、ネットワーク作りを実施しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から、職員間の人間関係を良好に保ち、困っていることや悩みを気軽に打ち明けあえる、環境作りに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員1人1人の個性を把握して、介護において努力や実力が十分に発揮出来るように援助しています。又、激務が続くことがないように体を休めつつ心身ともに、介護への意欲を持ち続けて働けるよう努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活歴や好み、本人の意向等を細かくお聴きする時間を多く取るように心掛け、安心して自由にのびのびと生活できるよう環境を整え、ケアに努めています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の思いや希望などを入所時に伺うと共にご本人の日々の様子を面会時に細かくお伝えしています。ご本人が安全に楽しく穏やかに過ごせることがご家族の思いであると認識し、ケアに努めています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、受け入れが困難と思われたときは、併設の居宅支援事業所と連絡又、必要に応じて行政と連携を持ち対応、支援させて頂いています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が今までの生活スタイルを壊すことなく、出来る限り在宅のイメージに沿うよう居室にお仏壇や家具、ご本人の大切な写真や思い出のある品物などをご家族にお持ちいただき、空間作りに努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側される側という関係でなく、共に暮らす同居者として、共に笑い感動し、悲しみ、喜び、癒し癒される関係作りに努めています。行事、習慣、料理など教えていただく姿勢で関係作りに取り組んでいます。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に立ち寄れる、雰囲気作りを心掛けています。面会時、入居者がご家族とゆっくり過ごせるよう、一緒にお茶を飲んでいただいたり、日頃の様子をお知らせしたり、スナップ写真を見ていただいたりしています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、入居者とご家族の間に立ち、施設での様子をお話し、ご家族様との触れ合いがご本人にとって、何よりの喜び、幸せであることをご理解頂けるように努めております。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人との話をお聴きし、行きたい場所や大切な場所を知るように努力しています。お墓参り、ゆかりの土地、自宅近くの店舗、個人の思いを大切に、ご家族との連携ご理解ご協力をお願いしながら支援しています。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の相性や関係の把握、理解し、さりげない言葉のフォローや、立ってる位置を計ったり、利用者の動きを確認しながら、利用者同士が安全に仲良く過ごせるように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お亡くなりになった利用者のご家族が、〇〇さん(利用者)にお世話になったから、と面会にきてくださるような関係が継続しているご家族もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、ご本人の話の中から、暮らし方の希望、意向の把握、に努めています。本人の日常行動パターン、などにより分析し対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人の話の中から情報を得ています。又診断書やケアマネージャーからの情報も活用しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者との日々の生活の中で一人一人個別の介護を実践しています。24時間生活変化シートを使用したり、排泄チェックシート、生活記録を活用し、分析、評価を行いながら個々の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、ご家族、主治医の求めることを把握し、アセスメントを行い、課題を明確にした介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のケアプランの見直しをしています。心身の変化、や緊急事態発生時には、本人、家族、主治医、他施設等と連絡を取り合い、速やかにプランの変更を行っています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々、ケアプランに沿った個別記録を記入し、利用者の生活状況や感情の変化を把握し、介護の実践、ケアプランの見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の部屋にご家族が宿泊の希望があり、対応したこともあります。必要に応じて主治医の往診、訪問看護婦の依頼等協力していただいています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ヤングボランティアの受け入れ、地域の消防団との連携、中洲小学校の児童の訪問を受けて、レクレーションを楽しんだり、学校の行事の運動会、音楽会に参加させていただいています。地域のどんど焼きへの参加等もあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の美容室、ヤクルトの訪問販売や併設の通所介護にこられている方たちとの交流支援もしています。		

医療法人こまくさ会こまくさの森

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	未対応		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、歯科医、皮膚科医、眼科医等、必要に応じ協力病院からの紹介を経て、ご家族の希望の際は、職員が付き添い、早期受診に努めています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院からの紹介状により、適切な情報交換が行われ、職員が付き添い医師とのコンタクトをとっています。少ない受診で済むように配慮いただいています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所の職員の看護師により、利用者一人一人の病歴や現在の身体状況を把握しながら健康管理をしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された際は、医療機関と連絡を取り合い早期に退院できるように連携しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時は、どこの病院で対応するか、ご家族の意向を確認しています。グループホームでの看取りの経験が1名あります。法人内の医師、訪問看護ステーションとの連携も出来ています。	○	出来るだけ早い段階に方向を決めていただけるように話しをしています。方向が出ていない方もいますので相談を持ちたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、訪問看護、施設ナース等、医療関係の連携はとれています。	○	ご利用者の重度化とはどうなっていく事か、終末期にはどんな状態が出現してくるのか、自分たちの出来る事、出来ない事、(身体的、精神的援助、他の利用者との関係、家族や医療との連携等)等、学んでいきたいとおもっています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の日々の生活の様子、予測される行動等、可能な限り、情報交換をし混乱のない安心した生活が続けられるように支援しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人の性格や個性を把握し、その人にあった言葉かけや対応に努めています。記録も個々にファイルし整理しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何が食べたいか、何をしたいか等をお聞きしながら支援しています。意思表示が出来ない方にたいしては表情や行動を観察しながら、対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できるように、生活のリズムを整えつつ、安定した時間が流れるように配慮しています。お茶や体操にお誘いするときも、ご本人の意思を尊重しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意思表示の出来る方には、日々の服装の選択をして頂いています。美容もご本人の希望にあわせ、美容院に出かけたり出張サービスを利用したりしています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの好きな方には食材の皮むき、きざむ、炒める、混ぜる等、職員と共に参加頂いています。テーブルを拭いたり、下膳や後片付け等、積極的に関わってくださる方が多いです。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の食の好みはだいたいの把握はできています。主食の量や副菜の種類、咀嚼力(刻み、ミキサー)など考慮にいった対応をしています。希望によりヤクルトやヨーグルト等の嗜好品も用意させて頂いています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを把握して、さりげない誘導や声かけをしています。臭気には注意を払い、換気や消臭剤の活用、汚れ物はすぐ新聞紙に包む、衣類やトイレはすぐ洗う、掃除をする等、清潔保持と嫌な気分を早く解消するように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にあわせ入浴時間、回数、湯の温度、皮膚に合わせた石鹸やボディソープ、タオルの選択にいたるまで本人と相談しながら支援しています。入浴後は皮膚の状態に合わせて保湿剤を使用や、水分補給をしています。一人に職員が一人付き添います		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の生活パターン、活動量、昨夜の睡眠状態、心身状態の把握に努め、個々に応じた休息が取れるよう対応をしています。不眠時はお茶を飲んで話しをしたり、一緒にテレビを見たりして精神安定をはかり、心地よい眠りが得られるよう努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の世話、食後の片付け、テーブル拭き、洗濯物たたみ、調理手伝い等自分の得意なことを役割とし日課になっています。体操、歌、ゲーム等自由に参加されたり、誕生日会、年中行事、外出(散歩、買い物、花見など)も良い気晴らしになっています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力、希望、家族と相談の上、ホームで預かっている方、小額を自分で管理されている方もおられ、買い物や孫の来訪時など自分のサイフから、お小遣いをあげている姿もみられます。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物にお誘いしたり、天気の良い日には近所の散歩や公園に出かけて、来ている方(子供を含む)との交流もあります。	○	高齢(97歳)と体力の低下に伴い、外出意欲の低下が見られる方もいます。

医療法人こまくさ会こまくさの森

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見や紅葉狩りは職員が計画を立て実施しています。個々にはお墓参り、本人が信仰している、お山参り(木曽御岳神社)、初詣等に出かけています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の希望により自室に電話を置いている方もいます。手紙に関しては職員が代筆したり、投函する、お手伝いをさせていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人等の来訪時には、本人と共にゆっくりしていただくために、自室にお茶の用意をしたり、フロアーに貼り出しているスナップ写真を見て頂いたり、最近の様子をお知らせしています		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修会や、施設の勉強会に参加して、身体拘束に関しては理解しており、拘束のないケアに取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には日中、鍵はかけてありませんが、離棟の恐れがあるので、センサーを設置してあります。居室はご本人が内から鍵をかけることは出来ます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	勤務中の職員は、常に一人一人の所在や行動確認を念頭におき、仕事をしています。夜間は21時、0時、3時に巡視をして安全確認を行い、排泄や徘徊には付き添い見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	フロアのソファの位置や観葉植物を利用して危険個所の目隠しにしています。刃物や消毒剤、洗剤などの保管には、注意し管理しています。本人の能力に応じ、針箱、編み棒を自己管理している方もいます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩き易い靴への変更や、転倒防止運動の実施、個々に合わせた食事形態にしたり、嚥下運動や服薬確認の徹底、定期的な利用者の所在確認、緊急連絡網の整備や火災訓練、などの訓練を行っています。ヒヤリハットを検討し事故防止にいかしています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時の対応は、緊急時マニュアルに基づき職員全員の理解を得られています。	○	応急処置などの定期的な訓練の実施をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練や火災通報装置により最寄の消防署への通報訓練を行っています。、地元消防団からの協力を得られる事になっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	施設生活にて起こりうるリスクについては入所時に説明させて頂いていますが、個々の心身の変化に伴い起こりうるリスクを把握し、面会時や電話連絡などで説明、理解を求めています。事前に予測されるリスクに対しカンファレンスを行い対応に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の病歴を把握し、予測される症状の早期発見に努めています。職員間での情報交換を行い、主治医との連絡を密におこなっています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴を把握し服薬の重要性を認識しています。状態の観察を行うと共に症状の変化は主治医に報告、指示を仰いでいます。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表に従い食事や水分の摂取量、運動量の確認を行い、出来るだけ自然排便を促すように努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の能力にあわせて、声かけ促しをします。半介助、全介助を行いながら、口腔内や義歯の清潔、観察を行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的に柔らかめのご飯と副菜です。個々の摂取能力や嚥下力に合わせ、おにぎりや刻み食、ミキサーにかけるなど全量食べて頂けるよう工夫したり、午前、午後のお茶の時間も含め十分な、水分確保に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基づき、手洗い、うがいを行い食器類、調理器具、布巾、ドアノブ、フロー、テーブル等消毒、除菌に努めています。インフルエンザの予防接種は職員はじめ、ご家族の了解をえて利用者全員が実施しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	特に台所用品(布巾、まな板)は毎日消毒しています。台所の床も消毒液につけたモップで拭き掃除をしています。食材は新鮮なものを購入し冷蔵庫内の清潔にも留意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲には花壇や野菜畑をつくり、季節を感じられる工夫、玄関には、花や観葉植物を置き、気持ちを和ませる工夫をしています。敷地内の桜やつつじ、柿やぶどうも季節を感じられ、収穫も楽しみにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安全で不安なくすごせるよう日当たりの良い居間にはソファや炬燵、テレビや本棚等の家具を置き、観葉植物や花を飾り居心地良く過ごせる工夫をしています。食事作りの匂いに誘われて、お手伝いしましょうかと言ってくださる方や食事を楽しみに待つ方など、家庭的な雰囲気があります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローと居間、どこでもご自由に過ごしていただけるようにテーブル(炬燵)、ソファ、籐椅子等が数箇所分散しておいてあり、好きな場所でお過ごしいただけます。		

医療法人こまくさ会こまくさの森

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意思を尊重し、出来るだけ在宅の雰囲気を取り入れるようにご家族と相談し、使い慣れたベッドや布団、たんす、テレビや仏壇、おもいでの写真等お持ちいただいています。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ、生ごみの臭いに特に気をつけています。こまめに換気を行う、排泄物(パット)はその都度、新聞紙に包んで処理する、脱臭剤の使用や掃除などです。各居室、居間、フロア等は冷暖房にて温度調節をしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はほぼバリアフリーになっており、安全面を確保しています。洗面台、配膳台、テーブルや椅子の高さや椅子の形を考慮して、利用者が無理なく使いこなせるようにしています。安全のために、ベッドでなく畳に布団を使用している方もいます。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所や自室がわかるように、やむを得ず名札をつけています。又、目印になるように、のれんや壁に絵を飾る等の工夫をしています。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外回りには季節の草花を植えたり、野菜作りをしています。花は施設内や仏壇に飾ったり、収穫を楽しんだり、ぶどう狩りや柿は皆で皮をむき、干し柿をつくります。前庭の芝生スペースでは散歩やお茶を楽しんでいます。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○当施設内においても高齢化が進んでいますが、97歳2名、95歳1名の明治生まれの方が、杖や歩行器の使用はしていますが生き活きと生活されています。職員に対し、自分の子供や孫に対するように、無駄のない食材の使い方、水の使い方、食器の洗いか、味付け等、教え指導する事が生きがいになっている様に見受けられる場面が普通に見られます。職員も教えていただくという素直な姿勢で受け止めている、ほほえましい家族的な雰囲気があります。

○ 日常生活支援も、個々の状態に応じた役割を見出し、遂行できた喜びと自信、やる気を引き出す、きめ細かい気配りをしています。

○ 寝たきりにならない為や転倒防止、誤えん防止のため、下肢筋力運動や嚥下運動、ラジオ体操など体を動かすことを積極的に取り入れています。

○ 個々の施設生活の歴史を残していくために生活の一場面をフィルムに収めた、アルバム作りをしています。